2006年度授業改善研修参加レポート　　所属（経済学部）　氏名　栗原　裕

「研修会等名称」
第 12 回 FD フォーラム（大学コンソーシアム京都）

場所：キャンパスプラザ京都
期間：2007 年 3 月 3 日～4 日

１．研修の内容

このフォーラムには、第 1 回以降、ほぼ継続的に参加しています。参加者数も相当なもので、京都のみならず、全国からも参集しているようです。

今回のテーマは、「学生が伸びる大学教育」でした。学生が主体的、積極的に学ぶようになるには、どのような仕掛け、仕組みが必要なのか、教職員に求められる資質は何なのか、私にとってかねてから大きな課題と感じており、興味、関心を持ち、参加させていただきました。

ちなみに、初日は基調講演（作家・京都産業大学客員教授の樋口裕一氏）とシンポジウム「大学教育への期待」でした。2 日目は 8 つの会場に別れ、「FD の組織的推進」「授業アンケートは授業改善につながるのか？」「大学におけるキャリア教育の方向性」「大学における国際化への対応」「大学院の FD って何」「短期大学の独自性とは」「学力低下に関する問題とどう取り組むのか」「大学連携型教育プログラムにおける FD の意義と役割」でした。一見するとややバランスが悪い印象がありますが、従来のフォーラムとの重複を避けているものと思われます。私は「授業アンケートは授業改善につながるのか？」に主に参加いたしました。

うち、特に感銘を受けたのは、濱名篤関西国際大学学長の報告でした。濱名先生は、大学の質評価のうち、「才能開発」以外の分野はさほど変えれぬこと、大学像を一律に論じるのは危険であることなどを問題提起されたうえで、テーマである授業アンケートについては、受身的評価から学生を中心に能動的評価がなされるべきであると主張されました。

なかでも、使命と現状分析に基づく具体的学習到達目標の設定、評価プランを組み込んだ教育内容とペダゴジーの選択（学外資源、非カリキュラムの活用など）の必要性、ディシプリンとペダゴジーの組み合わせの重要性、組織的・戦略的かつ継続的な FD、PDCA サイクルの継続、改善などを明快な論拠とともにお示しされ、私自身も大いに啓発、啓蒙されました。

米谷淳先生（神戸大学）、中村博幸先生（京都文教大学）の論題はそれぞれ「必要悪としての授業評価」「授業評価アンケートをめぐるいくつかの問題―様々な観点から―」で、授業評価に肯定的なスタンスを示しながらも、種々の問題点をそれぞれご指摘されました。

私個人の印象では、授業アンケートは必要不可欠であるものの、１）目的をより明確にすること、２）改革に繋がるものでなければならないこと、３）フィードバックが必要であることを、特に感じました。

２．研修の成果

濱名先生のご報告をはじめ、大いに得るところがありました。

反面、疑問に思う点も多々ありました。たとえば、授業調査の実施方法、回収方法（教員は退出し、回収、事務などへの提出も関与すべきではないと思います)、調査項目、その他、学生の感じ方、捉えかたなどがその一例です。

事実、参加、報告をした学生と教員の間にギャップが感じられたのは、私だけではないはずです。

本学の FD 活動については、さまざまな意見があるでしょうが、少なくとも今回登壇した一部の大学と比べれば、むしろ先進的で真摯な取り組みがなされている印象を持ちました。

３．授業への研修成果の反映状況

研修の機会をいただいたのですから、それを反映しなければならないのは、当然のことでしょう。4 月からは学部長への就任も決定しています。

今回のテーマに限定すれば、１で述べたやや具体的な提起を除けば、授業をつくる、よりよい授業を開発、創造する、そのための一つの方策としてとらえてはどうかと思います。

ただ、「改革」には繋げていかなければならないでしょう。これは教育活動に携わる者の責務であるはずです。

教育はなかなか目に見える成果が現れにくいです。しかし、時に大きな喜びを感じることがあります。そのために、われわれ自身の研鑽の必要性をより痛感した研修でありました。

申請者は、昨年より名古屋大学、名城大学と合同で、大学教育改革フォーラム in 東海を立ち上げました。昨年は 130 名、今年は 160 名の参加を得ることができました。大学コンソーシアム京都と比べ、参加者数はまだまだですが、報告や議論の内容に関しては、非常に高いと自負しております。こうした研修事業への参加者数を増していくことも課題なのでしょうが、FD 活動に事務職員の方々も含め、「仲間」を増やしていくこと、そしてより質の高い FD 活動を提供するために、FD 活動を組織化していくことも必要だと感じました。連携、提携の必要性については、言うまでもありません。

最後になりますが、こうした機会をいただきました愛知大学に、厚く御礼申し上げます。

学 部 長	ＦＤ委員長	ＦＤ委員会	総合企画課長	係